

NARA STAT JOURNAL

奈良スタットジャーナル

国勢調査100年からみる奈良

Vol.5

人口からみる奈良県

奈良県の人口ピラミッドの変遷／奈良県の人口重心の移り変わり

令和2年国勢調査ご協力をお願い

正確な統計を支える調査員

国勢調査よもやま話

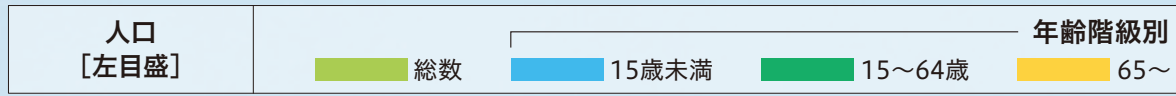
奈良県の統計リテラシー向上に対する取り組み



2020年に国勢調査は100年目を迎えます。

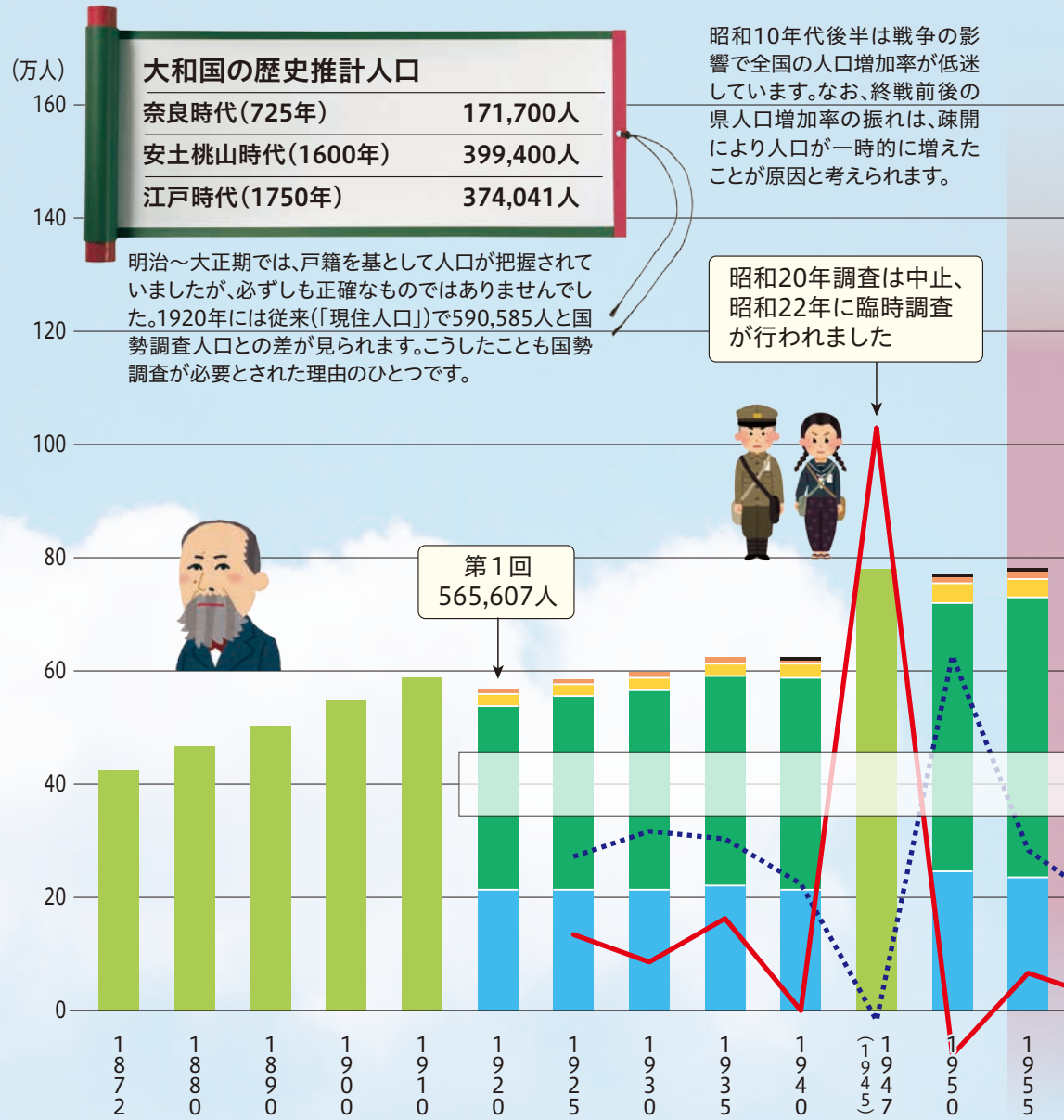
国勢調査は、日本に住んでいるすべての人及び世帯を対象とするわが国の最も重要な統計調査であり、国内の人口や世帯の実態を明らかにするため、5年ごとに実施されます。国勢調査から得られる様々なデータは、国や地方公共団体の政治・行政においてはも

人口からみる奈良 国勢調査の100年間を中心に過去から将来の奈良



国勢調査100年からみる奈良

人口総数・年齢階級別人口(4区分)(奈良県)



主な出来事

明治	大正	昭和
●明治9年(1876年)奈良県が堺県に編入		●昭和12年(1937年)日中戦争
●明治14年(1881年)堺県が大阪府に編入		●昭和16年(1941年)太平洋戦争
●明治20年(1887年)奈良県再設置		●昭和20年(1945年)終戦

奈良県の人口は、明治から昭和初期にかけては約40～60万人とペースで増加し、1970年代には100万人を大きく上回りました。

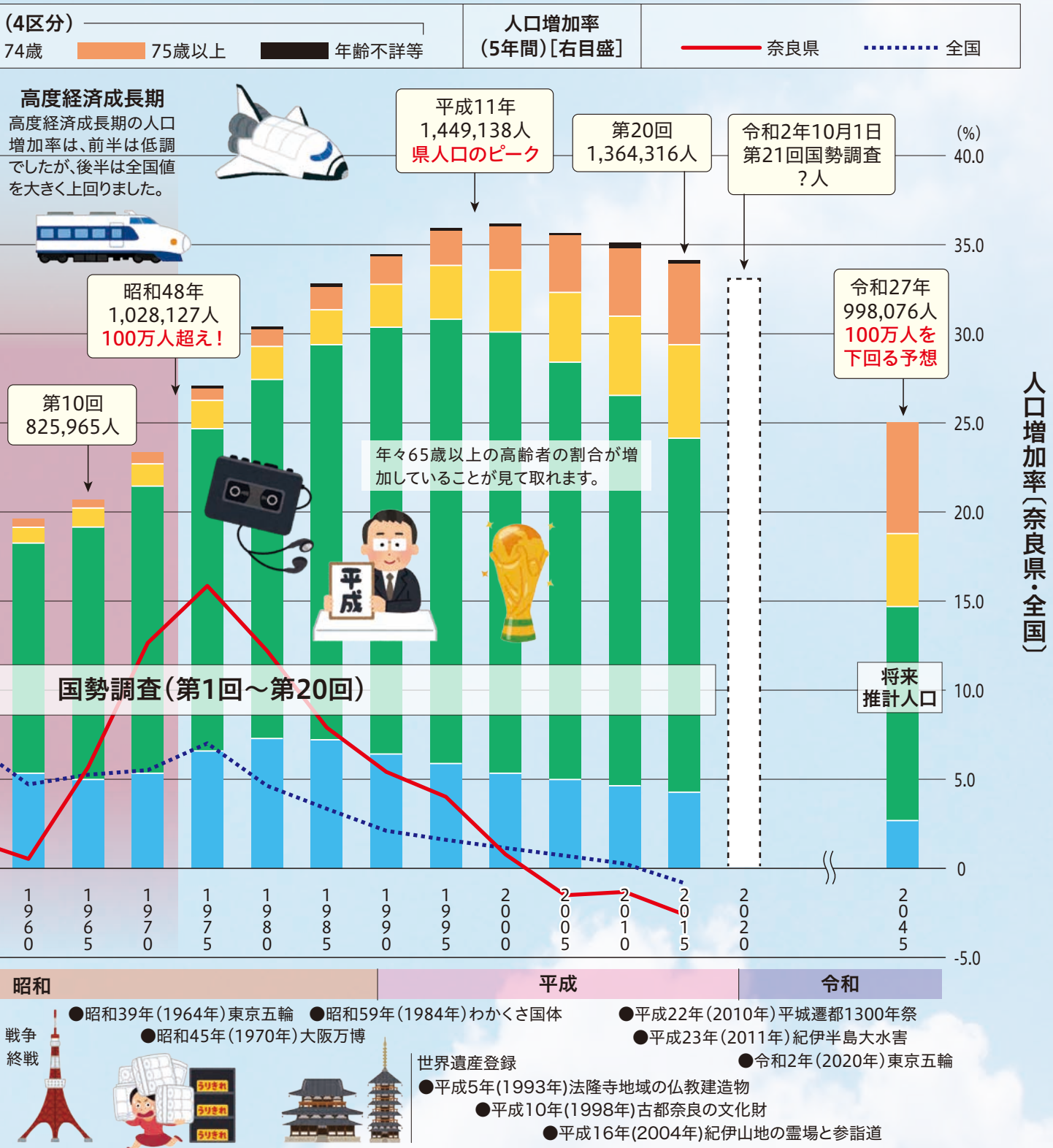
「人口からみる奈良」 1) 国勢調査以外(1910以前・2045)の人口は概念が異なるため参考値。1872～1910・1947は資料上の制約のため総数のみ表示。 2) グラフの人口については、1872・1880は「管内の人口」、1890～1910は「現住人口」、1920～2015は「国勢調査」、2045は「将来推計人口」による。グラフの増加率は、下記3)を除き「国勢調査」による。吹き出しの人口については、第1回・第10回・第20回は「国勢調査」、昭和48年・平成11年は「推計人口」、令和27年は「将来推計人口」による。 3) 1947/(1945)については、人口は1947年「第6回臨時国勢調査」により、人口増加率は1940年「国勢調査」と1945年「人口調査」による。 4) 「将来推計人口」は、平成30(2018)

もちろん、民間企業や研究機関でも広く利用され、国民生活に役立てられています。

2020年の国勢調査は、大正9年(1920年)に行われた日本で最初の国勢調査から数えて21回目、100年目の節目の調査となります。

以下では、これまでの国勢調査の結果を中心に、奈良県の人口にまつわる様々なデータをご紹介します。

県人口の移り変わりをしてみましょう。

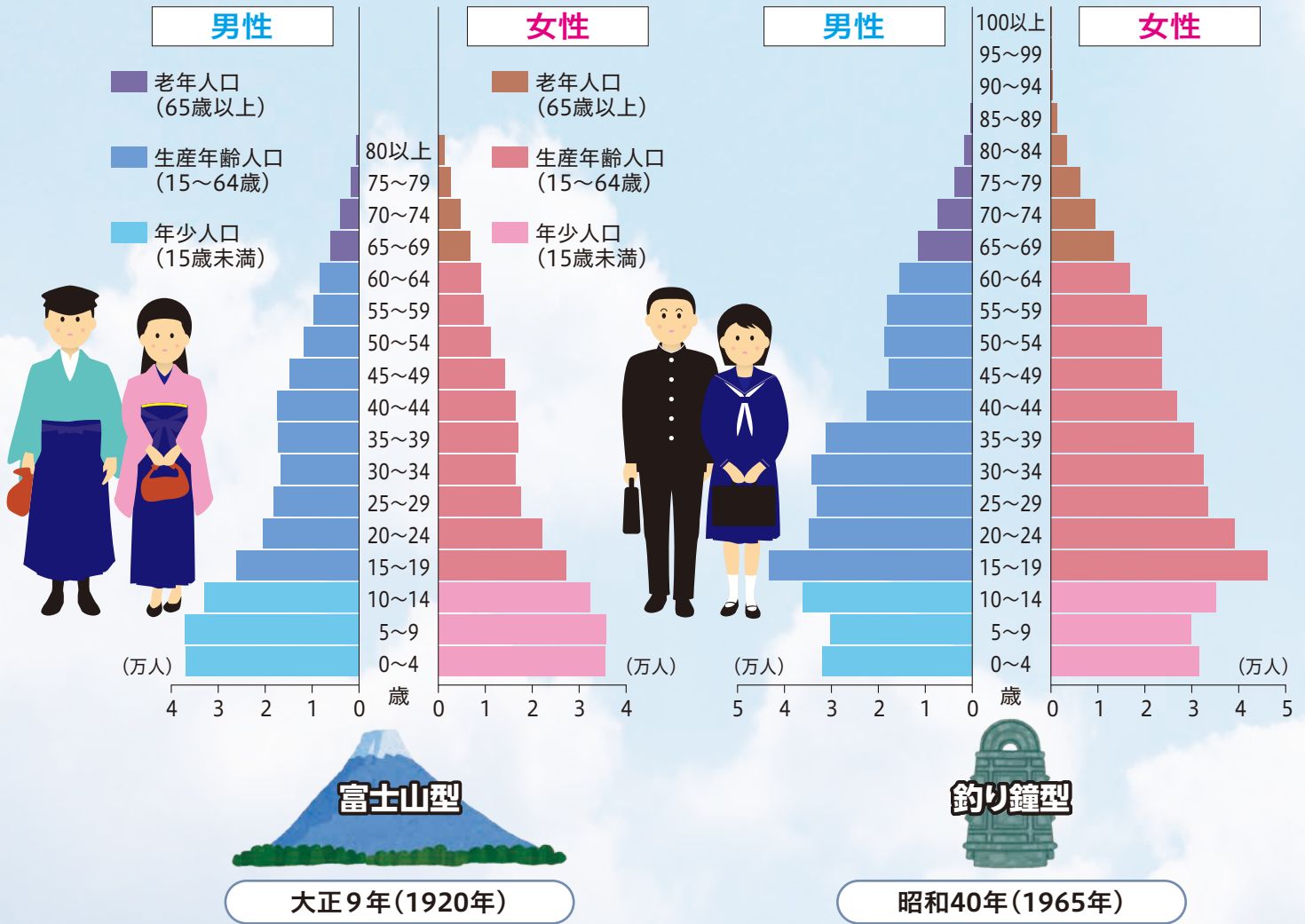


緩やかな増加で推移していましたが、高度経済成長期以降は全国を上回るしかし、21世紀に入る頃から全国に先駆けて減少に転じたことがわかります。

年推計による。5)吹き出しの「100万人超え」「県人口のピーク」については各年10月1日現在の「国勢調査」及び「推計人口」での比較による。6)明治より前の歴史人口は、鬼頭宏「明治以前日本の地域人口」『上智経済論集』41巻(1-2号),pp.65-79,(1996)、「江戸時代全国国別人口表-幕府調査-」『国勢調査以前日本人口統計集成』別巻1,速見融監修,原書房,(1993)を参照した。
出典:総務省統計局「国勢調査」「人口調査」、奈良県統計分析課「管内の人口」「現住人口」「推計人口」、国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口」

奈良県の人口ピラミッドの変遷

人口ピラミッドを見ると、年齢別、男女別の人口の構造を知ることができます。



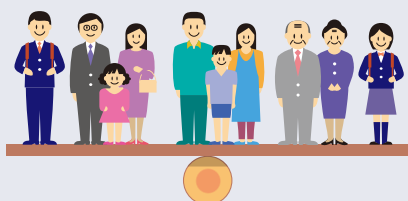
国勢調査の100年間で奈良県の人口構造は、多産多死の発展途上国型から少産少死の先者が多く年齢が若くなるにつれて、徐々にすぼまる、聖火かソフトクリームのような形にな

奈良県の人口重心の移り変わり

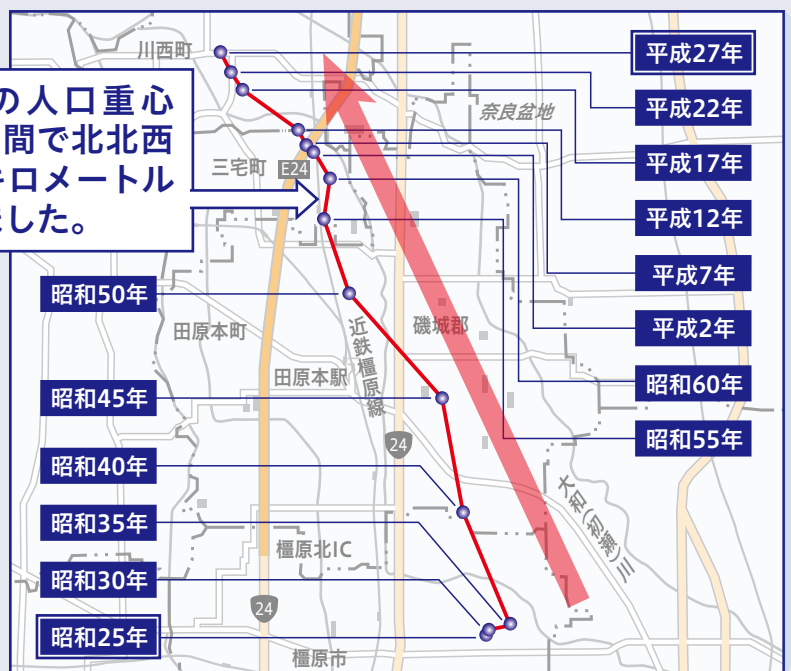
左の地図上の点は、各回国勢調査時点での奈良県の「人口重心」の位置を表したものです。「人口重心」とは、人口の1人1人が同じ重さを持つと仮定して、地域内の人口が全体として平衡を保つ点をいいます。

奈良県の人口重心は、昭和25年(1950年)には橿原市常磐町付近にありましたが、平成27年(2015年)には川西町結崎付近まで、北北西に約8キロメートル移動しました。

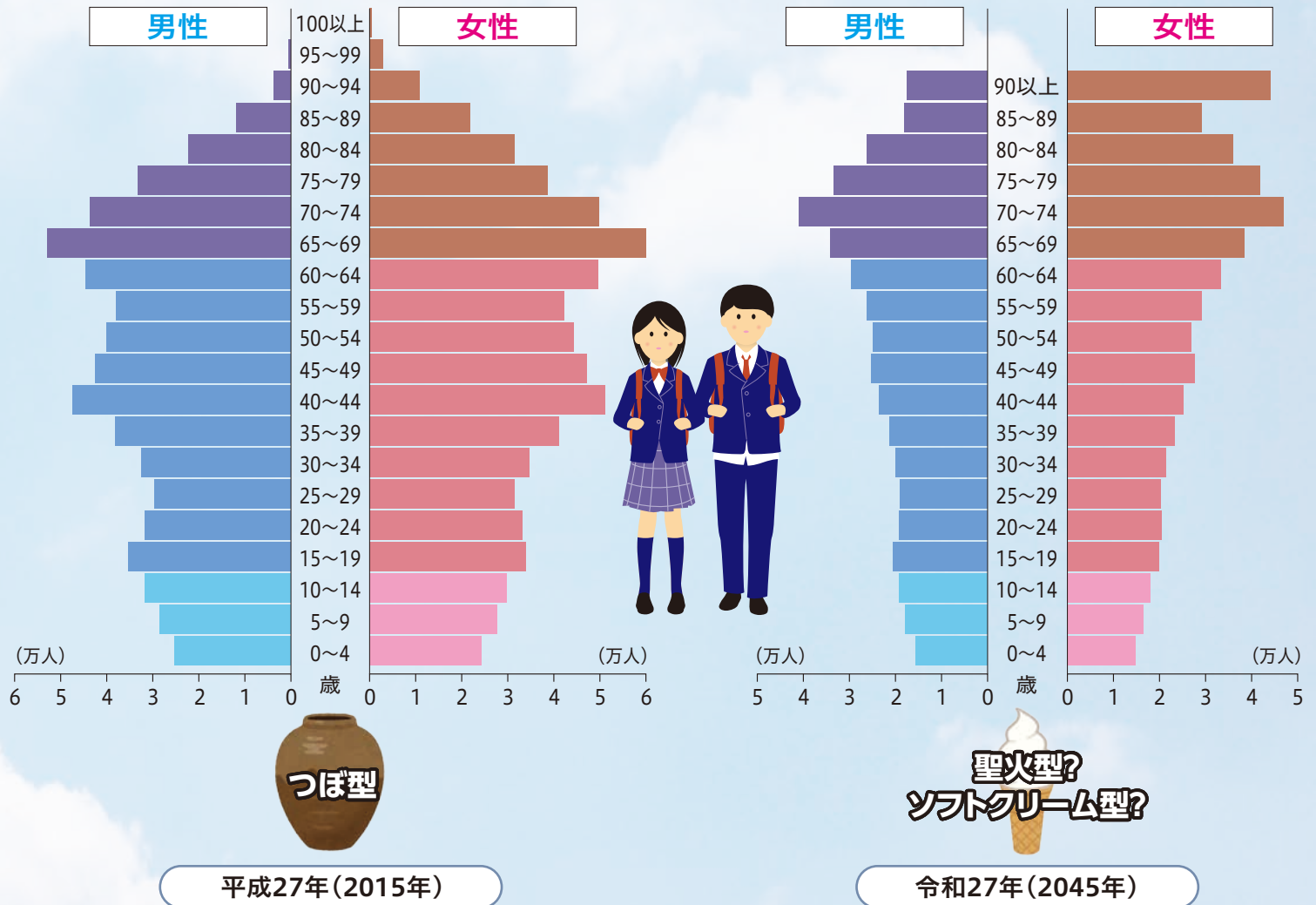
これは、この65年間で、県南部・東部と比較して、北部・西部の人口の比重が高まっていることを示しています。



奈良県の人口重心は、65年間で北北西に約8キロメートル移動しました。



国勢調査100年からみる奈良



進国型に変化したことがわかります。将来もこの傾向は続き、高齢者と予想されています。

出典：(1920～2015年)総務省統計局『国勢調査』、(2045年)国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)』



他のデータでも奈良県の過去と現在を比較してみました。

	大正9年(1920年)	昭和40年(1965年)	平成27年(2015年)
産業別 就業者割合 (%)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> ■ 第1次産業 ■ 第2次産業 ■ 第3次産業 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> 52.9 21.1 26.0 </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> 25.3 32.0 42.7 </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> 2.7 23.4 73.9 </div>
1世帯当たり 人	4.9人	4.2人	2.5人
市町村数	1市16町136村	8市14町25村	12市15町12村
人口の 全国順位 (47都道府県中)	46位 (対全国1.0%)	41位 (対全国0.8%)	30位 (対全国1.1%)

※産業別就業者割合の就業者は、年次によって産業分類や集計対象の定義が異なりますが、比較のため近似の値を掲載しています。

令和2年国勢調査ご協力のお願い

日本の未来をつくるための大切な調査です。
令和2年国勢調査にご協力をお願いいたします。



令和2年国勢調査の概要

調査の期日	令和2年10月1日現在で実施します。
調査の対象	令和2年10月1日現在、日本国内にふだん住んでいるすべての人(外国人を含む)及び世帯を対象とします。
調査の流れ	令和2年9月中に調査員が各世帯を訪問し、調査書類を配布、10月初めに回収に伺います。オンライン(インターネット)回答もできます。
調査事項	世帯員について 「男女の別」「出生の年月」「配偶者の有無」「就業状態」「従業地又は通学地」など15項目
	世帯について 「世帯員の数」「世帯の種類」「住居の種類」「住宅の建て方」の4項目

パソコンやスマートフォンでも回答できますので、是非ご利用ください



調査結果は、こんなところで利用されています

衆議院の小選挙区の決定、都市計画の策定、少子高齢化対策、防災・災害対策、他の統計調査の標本(サンプル)設計、大学・シンクタンクでの学術研究など。



身近な暮らしのために不可欠なデータです

個人情報情報は法律で守られています

統計法により、国勢調査に従事するすべての者には、調査で知り得た情報を保護する義務や調査票を適切に取扱う義務が課されていますので、安心して調査票をご提出ください。

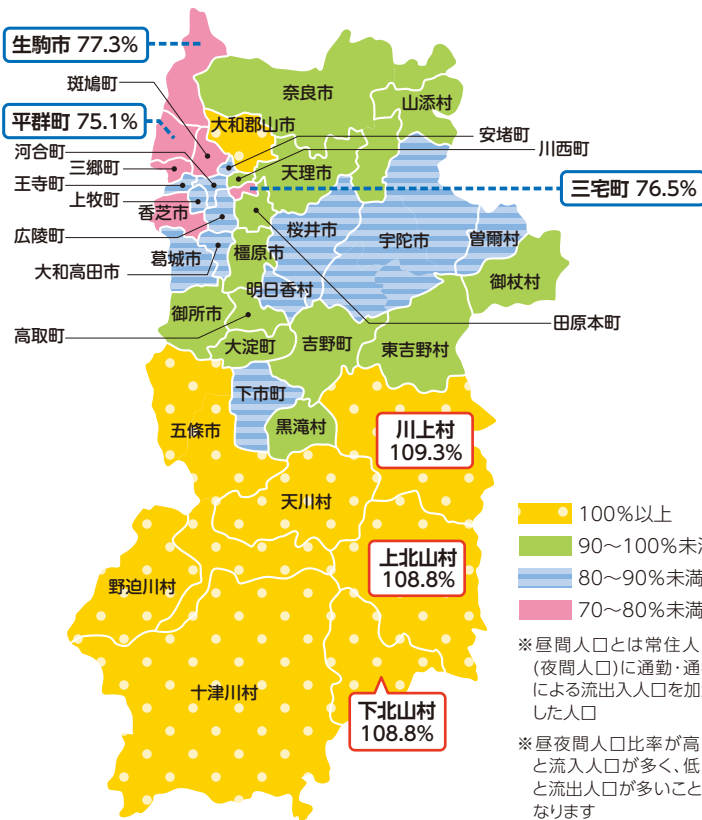


皆様に回答いただいた調査情報は、厳重に管理します

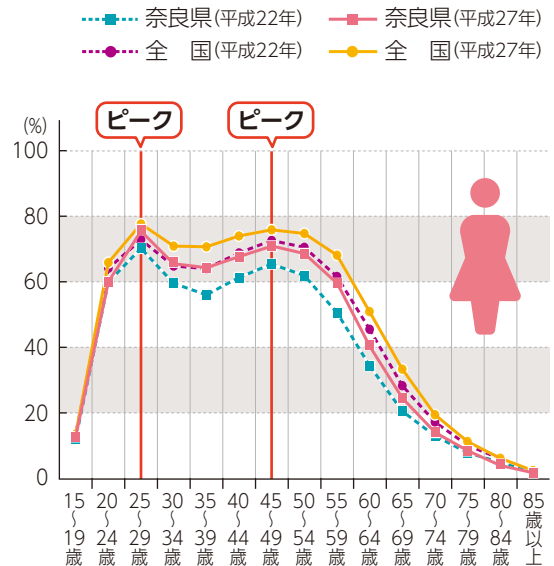
例えば、こんなことがわかります

昼夜間人口比率(夜間人口100人当たりの昼間人口)

平群町、三宅町、生駒市では、通学、通勤などにより、昼間の人口流出の割合が他市町村と比べても特になくなっていきます。



女性の就業率(年齢階層別)



女性の就業率は、年齢別では、25～29歳と45～49歳の2つのピークがあります。奈良県の女性全体の就業率は、平成27年調査では42.4%と全国最下位ですが、前回調査(平成22年)と比べ多くの年齢で全国平均を上回る上昇幅となりました。

資料:総務省統計局「国勢調査」

正確な統計を支える調査員

垣内 歌響さん/横井 勇子さん
(瑞宝単光章受章)



垣内 歌響さん

かきうち・かよ 昭和45年10月の国勢調査調査員として任命されて以来、9回にわたり国勢調査に従事。平成9年1月から14年間は、五條市民生委員・児童委員も務める。功績を認められ令和元年春の叙勲で瑞宝単光章を受章。温厚かつ柔和な人柄で地域の信頼も厚い。

「地域の方に支えていただいたおかげ」

垣内歌響さんは、国勢調査などの調査員として半世紀近く活動し、その功労により令和元年春の叙勲で瑞宝単光章を受章された。受章の知らせにはまず「なぜ私が」という驚きがあったという。受章の喜びはもちろんだが、「自分が健康でお仕事に携わらせていただけたことが何より嬉しくありがたいこと」と柔和な物腰で語る。

元々五條市の職員だった垣内さんは、職場で国勢調査の手伝いを頼まれ、調査員になった。その後早くに市を退職したあとも、引き続き調査員を務めた。「地域の方みんなに可愛がられ、支えていただいたと感じています」と長年の調査員人生を振り返る。

担当した調査には、対象者の生活形態が分かるものも多く、秘密を守ることは特に重視した。「同時期に民生委員を務めていたこともあり、守秘義務は大切だと感じていました」

また、初めての調査員説明会で、『調査員の行動によって調査結果の正確さが左右される』と言われたことを、常に心に留めている。「担当地域の数値の正確さは、自分の責任だと意識しながら調査を行っています」

調査員の仕事は、自分の勉強になることも多かった。調査で使われる用語は、自分が理解し、納得しないと相手に説明できないからだ。普段の生活では出会えない方との交流も得難い経験だった。「さまざまな調査を担当しましたが、それをきっかけに色んなことを教えてもらいました。昔の人が言う『人のためではなく己がためであった』ではありませんが、自分のためにもなりました」

近年はインターネット回答の導入により、調査も以前より楽になったと感じている。今後は、より若い人にも調査員を担ってほしいと垣内さんは願う。

「何よりも正確さを大切にした」

横井勇子さんは、生産動態統計調査や工業統計調査などさまざまな調査の調査員として長年活動し、令和元年春の叙勲で瑞宝単光章を受章された。ご主人からの「これは素晴らしいことだ」という喜びの声を聞いて初めて受章の実感がわいたという。「長年元気に続けられたのが一番嬉しい」と微笑む。

ご主人が県職員として連日夜遅くまで働いているのを見るうちに、「自分も何か出来ることがあれば頑張ってみたい」と思い、友人の紹介で統計調査員をはじめたという横井さん。

それまで調査員の仕事は知らなかったが、以前の勤め先で学んだ相手への丁寧な接し方が、調査活動で信頼を得るのに役立った。また、「調査員の仕事は隙間時間を使ってできる仕事で、自分の生活に合っていた」という。

この点も長く続けてこられた理由だ。

調査先に伺う際に特に気をつけていることは、マナーや身だしなみ、言葉遣いだ。「こちらはお願している立場」であることを忘れず、丁寧な対応を心がけた。調査結果で日本経済の動きが数字となって表れることを説明し、「正確に記入していただきたい」とお願いしている。「調査員がしっかりと調査の意義を理解し、正確な数字を書いてもらえる工夫をすることが大切だ」と熱く語る。

長年の調査員人生では、幾度も「やめたいと思ったこともある」と振り返る。そのたびにご主人に励まされ、仕事を全うできた。

調査員の仕事を含め、「自分の人生はよかった」と語る。これからのについては、「人と関わることがしたい。自分に何ができるか試してみたいです」。



横井 勇子さん

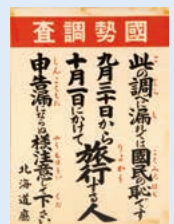
よこい・ゆうこ 昭和58年12月から統計調査員として従事。功績を認められ令和元年春の叙勲で瑞宝単光章を受章。昭和61年から33年間生産動態統計調査に調査員として従事した。調査への責任感と熱意により多大な信頼を受ける。平成31年3月までボランティアグループ「よつば会」で活動。

国勢調査よもやま話 第1回調査員は名誉職

大正9年(1920年)に実施された第1回国勢調査の調査員の選考要件は「文字を解し、事理に通じ、名望のある者」となっており、小学校教員、青年会幹事、町内会役員など約26万人が栄えある国勢調査員に任命されました。



五條市で5代にわたって続く老舗和菓子店「きく川」の店頭に展示されている第1回国勢調査の調査員任命書、記念章など。2代目当主が調査員を務めた。



第1回国勢調査のポスター

奈良県の統計リテラシー向上に対する取り組み

奈良県が統計リテラシー向上のために取り組んでいる内容をご紹介します。



奈良スタットイベント



奈良スタットイベント（統計活用事例発表会）は、統計リテラシーの向上を図り、証拠に基づく政策立案（EBPM）を推進するため、行政職員・統計関係者及び統計に関心のある一般の方を対象に、平成27年度からおよそ毎年1回開催しています。当イベントでは、統計に造詣の深い学識経験者による基調講演と県・市町村での統計活用事例の発表を行っています。



これまでの基調講演

第1回	平成27年10月16日	『地方創生に効くデータの力』 西内啓（統計家）
第2回	平成29年1月13日	『データを斬る、統計の威力』 狩野裕（大阪大学大学院教授）
第3回	平成29年11月20日	『エビデンスをベースに政策を考えるための統計思考力』 渡辺美智子（慶應義塾大学大学院教授）
第4回	平成30年11月16日	『統計でだまされない、だまさないために』 小原美紀（大阪大学大学院教授）

県・市町村職員向け統計研修（データサイエンスセミナー）

統計分析の基礎・応用、データ利活用（統計ツール（e-stat等）のパソコン実習）などの研修を開催し、高度な統計分析能力を持つ県・市町村職員の育成を図っています。



令和元年度政策立案・検証セミナー
講師 近畿大学 新開潤一講師



統計情報の発信

「奈良県のすがた」や「100の指標からみた奈良県勢」などの冊子やホームページを通じ、各分野における奈良県の特徴を、見やすいグラフなどで発信しています。



統計分析相談窓口

奈良県統計分析課では、県・市町村職員を対象とした統計相談窓口を設置しています。

窓口では、奈良県統計分析専門員が、統計分析の手法やアンケート調査結果の分析など、統計に関するあらゆるご相談に応じます。

ご希望の方は、統計分析課までお電話あるいはメールでご連絡を。相談日時は毎週金曜日の13時から17時まで。



安孫子勇一・近畿大学経済学部教授（奈良県統計分析専門員）